

伊吹山

イブキジャコウソウ

伊吹山は琵琶湖近くに聳える山で、古来から有名な存在であった。そのため、登山客が多い山としても知られている。深田久弥は混雑を避けて、四月中旬に登った。珍しく山野草の記述があり、タンポポ、ムラサキケマン、シヨウジョウバカマの名前が見える。そして、「頂上での第一の獲物は、遠く北に茜色ににじんだ純白の白山」と記している。確かにこの角度から見ると白山は、加賀地域から見る正面の白山よりは遥かに白い。筆者は写真集白山の下巻で、こ

の原因を調査するために空撮に挑んだ。そして、別山の南側斜面が、普通あるはずの稜線が全くない、平らな斜面が続く事を発見したのである。

一九八八年、夏から秋にかけて、何度も大形カメラを担いで、花の山伊吹山取材した。まさに花の山。いわゆる雑草というものが全くない、花で埋め尽くされていた。こんな山に出逢ったのは初めてで、フィルムが早々に無くなってしまった。それから随分年月が経った頃、滋賀県の専門家に合い、

鹿の食害の酷さを伝えられた。この時は、そんなに深刻には捉えられなかった。そして、二〇一九年の夏、久々に訪れた伊吹山には花が消えていた。これ程酷いとは、想像を越えて、愕然としたのである。あのシモツケソウのピンク色に染まっていた絶景は一体どうなったのであろうか。聞けば、関係者がいち早く防御柵を張って、禿げ山になるのをくい止めたと言う。山頂にある売店周辺は、人が入るのか、かろうじて花が残っていた。そして、東尾根に向

うと、イブキジャコウソウが登山道沿いで咲き誇っていた。かつて、この小さな花は、山頂周辺で大きな群落を作っていた。そして今、かろうじて生き残っている株に、愛おしく感じたものである。

